

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用評価(2019年版、名古屋市長官庁環境政策推進課マニュアル2019) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭と区楽園町計画新築工事	階数	地上4F地下1階
建設地	愛知県名古屋市昭和区楽園町77番1	構造	RC造
用途地域	第1種低層住居専用地域、法22条区域、宅地造成等規制区域、文教地区、緑化地域、外壁後退10m、10m高度地区、居住誘導区域	平均居住人員	96 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年12月16日
敷地面積	2,023 m ²	作成者	
建築面積	801 m ²	確認日	2020年12月16日
延床面積	2,391 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.3 ★:S★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
傾斜地に沿った配棟とし、一部を地階とすることで高さを抑えた計画とした。道路との境界は植栽帯を作り、高密度な植栽配置により周辺環境との調和を目指す。特に南側の前面道路と本計画建物とのあいだに道路の高低差に合わせた段々の高密度な植栽帯を計画し、歩道レベルにも植栽帯を作ることによって歩行者が建物による圧迫感の感じにくいように考慮した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性能の高いサッシとすることで快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。	建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。また、全フロア階高2.92m以上を確保することで広々とした天井高を計画している。	20%以上の緑化を行った。また、中木、高木を植栽した。定期的に管理ができるよう、管理用通路を設置。管理会社が水やり、樹木の剪定、掃除を行う。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮性能は日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たし、一次エネルギー消費性能についても建物全体のBEIが0.77としている。	節水コマや節水型便器の採用により環境負荷低減に寄与する。	ライフサイクルCO ₂ 排出率が62%で、一般的な建物(参照値)以上としている。駐車場及び駐輪場については、住戸数以上の台数を確保する計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)昭和区楽園町計画新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。